



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ウラナミシジミ 学名:*Lampides boeticus*

名前は、はねの裏面には波形の模様があるシジミチョウという意味です。シジミチョウとは、貝のシジミのように小さなチョウという意味です。

翅表は青く輝き、翅端には黒い点紋と尾状突起があります。黒い紋は複眼に、尾状突起は触角に似せていると言われ、天敵に対する防御の役に立っているようです。

本来、南方系のチョウで寒冷地では冬を越すことは出来ず、死滅してしまいましたが、毎年秋になると温暖な地域で繁殖した個体が、広範囲に移動して、本州全域で見ることが出来ます。

秋になると、明るい草原を飛び回り、吸蜜する姿を見ることが出来ます。幼虫はマメ科植物を食べるためアズキやダイズ畑に来ている姿をよく見ますが、冬になると幼虫や卵も死んでしまうので、害虫となることはありません。

【解説：秋山美文(比和自然科学博物館客員研究員)】

